

同時資料配布先:

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2025 年 12 月 16 日

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

革新的 CO₂ 分離回収・有効利用技術シンポジウム
～ 地球温暖化防止に貢献する CO₂ 分離回収・利用技術の最新動向 ～
開催について

公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) は、2026 年 2 月 10 日 (火) に東京大学伊藤謝恩ホールにおいて「革新的 CO₂ 分離回収・有効利用技術シンポジウム」を開催します。

本シンポジウムでは、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) サーキュラーエコノミー部の福永部長に NEDO における CCUS 技術開発への取組みについて基調講演をいただいた後、三菱ガス化学株式会社からメタノールを介した循環型経済構築に向けた取組みに関して、株式会社 INPEX から首都圏 CCS に関して、またカナダの Svante 社から MOF を活用した次世代固体吸着剤技術に関してそれぞれご講演を賜ります。さらに RITE が取り組んでいる CO₂ 分離回収・有効利用技術の開発状況、万博会場でのダイレクトエアキャプチャー (DAC) 実証試験結果、RITE 炭素回収技術評価センター (RCCC) の取組み状況を報告します。

本シンポジウムは会場と web 配信のハイブリッド方式で開催し、会場では、ご来場の皆様と RITE 研究者との直接のコンタクトの機会としてポスターセッションを行います。会場へお越しいただき、積極的な情報収集、活発な意見交換が実れば幸いです。

CCUS・DAC にご関心をお持ちの方のご参加をお待ちしています。

1. 開催趣旨

CCS ロードマップ (二酸化炭素の年間貯留目標 2030 年 600～1200 万トン/年、2050 年 1 億 2000 万～2 億 4000 万トン/年) の実現へ向けて、先進的 CCS 事業が 2023 年度から始まり 2 年が経過しました。今後、益々、事業化が加速していくと予想されます。二酸化炭素有効利用 (CCU) や DAC においても、技術開発は継続して盛んに行われており、事業化推進も着実に進んでいます。また、本年は MOF (金属有機構造体) を開発した京都大学北川先生らがノーベル化学賞を受賞され、MOF を用いた CO₂ 分離回収への注目が集まり、その実用化への期待が高まっています。

こうした状況下、本年のシンポジウムでは、CCUS 技術開発、先進的 CCS 事業、MOF 利用の各最前線を広く皆様に知っていただく機会を提供します。本シンポジウムでの意見交換・ディスカッションを通して、関係の皆様の各技術開発が益々進展することを願います。

2. 開催概要

日 時: 2026 年 2 月 10 日 (火) 12 時～17 時 30 分 (受付 11 時 30 分～13 時)

会 場: 東京大学 伊藤国際学術センター B2F 伊藤謝恩ホール

開催形式: ハイブリッド形式 (会場での講演を web 配信)

定 員: 会場 (300 名)、web (1500 名)

参 加 費: 無料

主 催: (公財) 地球環境産業技術研究機構

共 催: 経済産業省、(国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構、
次世代型膜モジュール技術研究組合
(組合員: 住友化学 (株)、(公財) 地球環境産業技術研究機構)

後 援: 日本 CCS 調査 (株)、Global CCS Institute、(公社) 新化学技術推進協会、

(申請予定) (一財) エネルギー総合工学研究所、(一社) 水素供給利用技術協会、

(一財) カーボンニュートラル燃料技術センター、

(一社) 日本ガス協会、燃料電池実用化推進協議会

協 賛: (一社) 日本膜学会、(公社) 化学工学会、(公社) 高分子学会、

(申請予定) (公社) 日本化学会、(一財) ファインセラミックスセンター

3. プログラム

(講演) 伊藤謝恩ホール

13:00-13:05	主催者挨拶	(公財)地球環境産業技術研究機構 理事長 山地 憲治
13:05-13:10	共催者代表挨拶	経済産業省 資源・燃料部 燃料環境適合利用推進課 課長 刀禰 正樹
13:10-13:50	基調講演	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構 サーキュラーエコノミー部 部長 福永 茂和 「NEDO の CCUS 技術開発 (仮題)」
13:50-14:30	招待講演 ①	三菱ガス化学㈱ 取締役 常務執行役員 赤瀬 英昭 「メタノールを介した循環型経済構築に向けた取り組み 「CarbopathTM」」
14:30-15:10	招待講演 ②	INPEX 低炭素ソリューション事業本部技術推進ユニット ジェネラルマネージャー 飯田 真司 「INPEX 低炭素ソリューション事業・CCUS 事業への取り組み」
15:10-15:50	招待講演 ③	Svante President, Svante Solutions and Digital Services Mark Claessen 「CO ₂ capture using MOF - Next-Generation Solid Sorbent Capture: Unlocking Industrial and DAC Opportunities (仮題)」 (CO ₂ 回収 - MOF を活用した次世代固体吸着剤技術:産業および DAC に おける新たな事業機会 (仮題))
15:50-55	ポスター・展示の案内	
16:25-16:55	活動報告 ①	RITE 化学研究グループ グループリーダー 余語 克則 「CO ₂ 分離回収・有効利用技術開発の動向と RITE の取り組み (仮題)」
16:55-17:10	活動報告 ②	RITE 化学研究グループ 主任研究員 木下 朋大 「大阪・関西万博における DAC 実証試験結果 (仮題)」
17:10-17:25	活動報告 ③	RITE 化学研究グループ 主任研究員 後藤 和也 「炭素回収技術評価センター (RCCC) オープンして 1 年間の成果 (仮題)」
17:25-17:30	閉会挨拶	RITE 専務理事 本庄 孝志

(ポスター・展示) 多目的スペース

12:00-13:00 および 15:55-16:25	【RITE】吸収液、固体吸収材、CCU 無機膜、産業化戦略協議会、RCCC 【次世代型膜モジュール技術研究組合】CO₂分離膜 【後援企業】グローバル CCS インスティテュート 【産業化戦略協議会会員企業】(株)カーボニティ 【GI 基金 CO₂の分離回収等技術開発プロジェクト】 ①東邦ガス(株) [共同出展:名古屋大学・日揮ホールディングス(株)・九州大学・九州工業大学・中央大学] ②千代田化工建設(株)[共同出展:(株)JERA、RITE]
-----------------------------------	---

4. 参加登録

参加を希望される方は、下記 RITE ウェブサイトよりお申し込み下さい。

https://www.rite.or.jp/news/events/2025/12/co2_2026210.html

5. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方も、事前にお申し込み下さいますようお願い致します
(やむを得ず当日受付となる場合は、名刺をご持参下さい)。

お問い合わせ先
○シンポジウムの内容・参加登録に関するお問い合わせ先:
・(公財)地球環境産業技術研究機構 龍治、菰野 TEL:0774-75-2305 E-mail:bunrisympo@rite.or.jp
○本プレス発表に関するお問い合わせ先:
・(公財)地球環境産業技術研究機構 企画調査グループ 広報・産業連携チーム TEL:0774-75-2301 E-mail:pub_rite@rite.or.jp

革新的CO₂分離回収・有効利用技術 シンポジウム

～地球温暖化防止に貢献する CO₂ 分離回収・利用技術の最新動向～

開催案内

1. 開催趣旨

CCS ロードマップ(二酸化炭素の年間貯留目標 2030 年 600～1200 万トン/年、2050 年 1 億 2000 万～2 億 4000 万トン/年)の実現へ向けて、先進的 CCS 事業が 2023 年度から始まり 2 年が経過しました。今後、益々、事業化が加速していくと予想されます。二酸化炭素有効利用 (CCU) や DAC においても、技術開発は継続して盛んに行われており、事業化推進も着実に進んでいます。また、本年は MOF (金属有機構造体) を開発した京都大学北川先生らがノーベル化学賞を受賞され、MOF を用いた CO₂ 分離回収への注目が集まり、その実用化への期待が高まっています。

こうした状況下、本年のシンポジウムでは、CCUS 技術開発、先進的 CCS 事業、MOF 利用の各最前線を広く皆様に知っていただく機会を提供します。本シンポジウムでの意見交換・ディスカッションを通して、関係する皆様の各技術開発が益々進展することを願います。

2. 開催概要

日 時: 2026 年 2 月 10 日(火)

12 時～17 時 30 分 (受付 11 時 30 分～13 時)

会 場: 東京大学 伊藤国際学術センター B2F 伊藤謝恩ホール

開催形式: ハイブリッド形式(会場での講演を web 配信)

定 員: 会場(300 名)、web(1500 名)

参 加 料: 無料

主 催: (公財)地球環境産業技術研究機構

共 催: 経済産業省、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構

次世代型膜モジュール技術研究組合

(組合員:住友化学(株)、(公財)地球環境産業技術研究機構)

3. プログラム

(講演) 伊藤謝恩ホール

13:00- 13:05	主催者挨拶	(公財)地球環境産業技術研究機構 理事長 山地 憲治
13:05- 13:10	共催者代表 挨拶	経済産業省 資源・燃料部 燃料環境適合利用推進課 課長 刀禰 正樹
13:10- 13:50	基調講演	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構 サーキュラーエコノミー部 部長 福永 茂和 「NEDO の CCUS 技術開発 (仮題)」

13:50- 14:30	招待講演①	三菱ガス化学㈱ 取締役 常務執行役員 赤瀬 英昭 「メタノールを介した循環型経済構築に向けた取り組み 「CarbopathTM」」
14:30- 15:10	招待講演②	INPEX 低炭素ソリューション事業本部技術推進ユニット ジェネラルマネージャー 飯田 真司 「INPEX 低炭素ソリューション事業・CCUS 事業への取り組み」
15:10- 15:50	招待講演③	Svante President, Svante Solutions and Digital Services Mark Claessen 「CO ₂ capture using MOF - Next-Generation Solid Sorbent Capture: Unlocking Industrial and DAC Opportunities (仮題)」 (CO ₂ 回収 - MOF を活用した次世代固体吸着剤技術:産業および DAC に おける新たな事業機会 (仮題))
15:50- 15:55	ポスター・展示の案内	
16:25- 16:55	活動報告①	RITE 化学研究グループ グループリーダー 余語 克則 「CO ₂ 分離回収・有効利用技術開発の動向と RITE の取り組み (仮題)」
16:55- 17:10	活動報告②	RITE 化学研究グループ 主任研究員 木下 朋大 「大阪・関西万博における DAC 実証試験結果 (仮題)」
17:10- 17:25	活動報告③	RITE 化学研究グループ 主任研究員 後藤 和也 「炭素回収技術評価センター(RCCC) オープンして1年間の成果 (仮題)」
17:25- 17:30	閉会挨拶	RITE 専務理事 本庄 孝志

(ポスター・展示) 多目的スペース

12:00- 13:00 および 15:55- 16:25	【RITE】 吸収液、固体吸収材、CCU 無機膜、RCCC、産業化戦略協議会 【次世代型膜モジュール技術研究組合】 CO ₂ 分離膜 【後援企業】 グローバル CCS インスティテュート 【産業化戦略協議会会員企業】 ㈱カーボニティ 【GI 基金 CO₂ の分離回収等技術開発プロジェクト】 ①東邦ガス㈱ [共同出展：名古屋大学・日揮ホールディングス㈱・九州大学・ 九州工業大学・中央大学] ②千代田化工建設㈱ [共同出展：㈱JERA、RITE]
---	---

4. 参加登録

参加を希望される方は、下記 RITE ウェブサイトよりお申し込み下さい。

https://www.rite.or.jp/news/events/2025/12/co2_2026210.html



5. 会場アクセス

最寄り駅およびバス停から伊藤国際学術センターまでの地図

